

書塾の仲間たち

第261回

田村書道教室（東京都足立区）



●書塾からひとこと●

当教室は、東武スカイツリーラインの五反野駅近くに教室を開き、今年で二十五年になります。

十四年前に「書塾の仲間たち」に掲載していただいたときの生徒は十四名でしたが、現在は六十名ほどになりました。小学生のころから通ってくれている生徒が今では昇段試験を受験するようになり、私も指導に熱が入っております。

また、息子が通っていた小学校で縁があり、十年ほど前から十二月中旬に、特別授業として一年生から六年生まで書初め課題を教え、三百人ほどに添削もしております。おかげで私自身も大いに勉強になりました。

当教室では毎年、日本武道館主催の全日本書初め大展覧会と高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会に出品しております。七年前の事になりますが、息子がテレビ東京賞を受賞し、当時はホテルで行われていた念願の表彰式に出席したことを今もよく覚えています。

指導するにあたり、一人一人にあわせて教えています。生徒が努力することで、上手に書けた喜びや自信を持てるような指導に取り組んでおります。

子どもたちからは元気をもらい、大人の方とはいろいろな話をしながら、長く楽しく続けていきたいと思っています。これからも生徒の皆さんと一緒に歩んでいき、生涯現役で精進に励むこと、それが現在の私の願いです。

田村書道教室 田村 智美

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

成果

小五 執行 珠生花



父の背中を追いかけて

静岡県浜松市立穂志小学校五年

執行 珠生花

私の父は、いつも私を笑わせたり、楽しませてくれます。そして父はとも上手に綺麗な字を書きます。私はそんな父が大好きです。

父が小学生の時に書道教室に通っていたことを知って私も通いたいと思うようになり、それがきっかけでむぎ書道教室に通うようになりました。

今は硬筆と毛筆の両方を習っていますが、私は毛筆のほうが好きです。先生から「ひらがなを書くときのやわらかさがすごく上手だね。はね、はらい、とめもしっかり書けているね!」と褒めてもらえて、とても嬉しくなり毛筆が大好きになりました。家族にも褒めてもらえることも多くなったことで、より毛筆書きに自信を持って取り組めるようになりました。

月刊「書道」の競争書は毎月出品しています。級が上がらない月はすごく悔しいです。そんなときは先生と一緒にお手本と自分の作品を見比べて、次回はここを直そうと反省して次の作品に活かしています。

また、学校の宿題の書き取りや学校の授業ノートも丁寧に書くように心がけています。そのような工夫の成果は確実に出てきていると感じています。最近、小学校の作品展でも賞をいただきました。母からご褒美をもらえたり、父から褒めてもらえたことが何よりも嬉しかったです。

書道への気持ちは、大好きな父への憧れから父を超えたいという思いに変わっています。父の背中を追いかけている私ですが、いつか父を追い越せるように頑張ります。これからご指導をお願いします。

私と書道書道 第261回

学年	小六	退校級	級	氏名	川市一颯
天地の間にほろと時雨かな					



速書とリズムとお手本の大切さ

静岡県浜松市立穂志小学校六年

川市 一颯

私は小学五年生の時に書道を始めました。丁寧な文字を速く書くことが苦手だった当時、ポストに入っていた「そろばん、速読解、書道書道を習ってみませんか」と書いてある手紙を見たことがきっかけでした。

むぎ書道教室は「美しく・正確に・速く」書くことを目標にしている教室です。はじめの五カ月ぐらいは、自分なりにお手本をしっかり見ながら書くのと、一枚仕上げるのに二十分以上かかって、速書にはほど遠い状況でした。練習しても速く上手に書けないので悩んでいました。

そんな時、ある月の目標掲示に「美文字、速書は筆順が基本」と書いてありました。そこでお手本をただ真似て書くのではなく、書く前に先生と書き順を確認し、指でお手本をなぞりながら書くイメージをしました。硬筆も毛筆もそのイメージを思い出しながら書き進めると、今までよりも目標に近づいた実感が出てきましたが、自分のイメージする速書にはまだまだでした。

先生と一緒に考えて、次に気をつけたのは「姿勢」です。猫背にならないよう、また床に足全体をつけて書くように心がけました。直接速書にはつながりませんでした。以前より集中できるようになりました。

次に教わったのはリズムよく書くことです。お手本の筆順を心の中で一、二、三...とイメージしてから書くように工夫をしたところ、一枚を十五分以内で完成できるようになりました。今はリズムを少しずつ速くしていき、難しい漢字でもお手本を見ながらですが、苦勞せずに書けるようになりました。

これからは速書とリズムとお手本を大切に、美しい文字が書けるよう努力します。